

企業名：森永製菓

レポート名：統合報告書 2021 年 3 月期

## 1. この会社が目指す姿が理解できるか

本社は企業理念を、社会に対してどのように貢献していくのかを表明した「私たちの使命」、将来に向けてこうありたいと考える 5 つの姿を表現した「私たちが目指す未来」、創業から 100 年を超える歴史の中で育みこれからもゆるぎない信念としていく「私たちが大切にしている思い」の 3 つで構成している。そしてこれらの企業理念を一言で表したコーポレートメッセージが「おいしく、たのしく、すこやかに」である。

特にこのコーポレートメッセージには食品会社としての目指す姿が明確に示されており、大変わかりやすいと感じた。それだけではなく本社の企業理念はピラミッド型になっており、その最上位には世代を超えて愛されるすこやかな食を創造し続け、世界の人々の笑顔を未来につなぐというスローガンが示されている。その下層には私たちが目指す未来として品質、価値創出、可能性の拡大、ステークホルダーとの信頼関係強化、持続可能な社会への貢献といったその達成のために必要なゴールが示されており、さらにその下位には従業員が心がけるべき利他の精神が記されている。最下層には行動憲章・行動規範が示され全体の目標の基盤となっているのだ。

これらの企業理念からは世代、国を超えて愛される商品を目指すと言う森永製菓グループの目指す姿を理解することができた。ピラミッド型で示された企業理念はそのために必要な達成事項を明確に示し、目標達成に向けた道のりが記されているといえる。外部に示すべき将来の目指す姿として、理想的なものなのではないだろうか。

## 2. この会社の競争優位性が理解できるか

本社の競争優位性は、単なるお菓子メーカーではなく心と体の健康を提供する「ウェルネスカンパニー」を目指している点にあるといえる。心の健康、体の健康、環境の健康に貢献するために価値を創造し、持続的な成長実現しようとするものである。当社がそのために力を入れている通販事業や冷菓事業、米国での事業は、これまでのお菓子メーカーとは一線を画す取り組みであり競争優位性にあたるといえるのではないだろうか。

## 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

森永製菓グループの競争優位性には大いに持続性があると言える。その理由は主に 2 つある。

一つ目は、当社が掲げているマテリアリティ特定プロセスである。従業員、顧客、社会の心の健康、体の健康、環境の健康を実現するために転角マテリアリティで 2030 年までの長

期目標を設定し、パーパスに基づいたサステナブル経営を推進していくというものである。

2つ目は多様な人材が活躍できる労働環境を整えようとする本社の取り組みである。米国での事業にも見られるような国籍や人種にとらわれない雇用の推進や、男性育児休業取得率の向上といった、ワークライフバランスの実現が行われている。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私は、森永製菓グループで自身の人的資本の価値を向上することができると思う。これまで述べてきたように、本社は国籍や領域にとらわれない事業を推進しているうえ、人種や性別にとらわれない雇用に取り組んでおり、自身の価値観や視野を大きく広げることができると思ったからだ。

#### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

最後に、本報告書の改善点について述べていく。改善点は主に文字と図のバランスである。4ページ目や5ページ目に見られるように、図を多く用いて社内の体制を説明しているページも多い。だが森永製菓グループが本報告書を通じて本当に伝えたい事は、企業理念や目指す姿、力を入れている事業といった会社の内部にある外部からはなかなか見えづらい姿のはずである。

それらを効果的に表現する上で文章だけではなかなか読む人の興味を惹きつけることができない。企業理念に関しては、ピラミッド型の頭で示されており大変理解しやすいが、目指す姿や具体的な事業に関しては、文字が多く読みづらい場面も多くあった。具体的な数値が少ない場面で、図を用いる事は難しいが、その中でも効果的に図や表、あるいは少しの絵を用いて表現する事は、わかりやすく報告書を作成する上で重要なことなのではないだろうか。